

## 旧絵鞆小学校円形校舎の保存活動と今後の活用

三木真由美 旧絵鞆小活用プロジェクト 代表／（一社）むろらん 100年建造物保存活用会 理事

2棟の円形校舎が特徴的な室蘭市立絵鞆小学校は1892年（明治25年）に「常盤学校絵鞆分校」として開設され、2015年3月に閉校した。この校舎がある祝津町には、高度経済成長期、造船所や橋梁メーカーの社宅が立ち並び、ピーク時には1600人の子どもたちが通っていたという。円形校舎はまさにそのピーク時、1958年（昭和33年）、1960年（昭和35年）に建てられた。

祝津町は白鳥大橋のたもと、室蘭市の重点観光エリアのひとつであり、校舎は道の駅「みたら室蘭」や市立室蘭水族館にも近い。学校敷地内には絵鞆貝塚があり、縄文期の土偶をはじめ、土器・骨角器などの出土遺物の一部は、東京国立博物館に収蔵されている。

円形校舎は、螺旋階段が中央に位置し扇形の教室が並ぶ「校舎棟（教室棟）」と、ドーム屋根が特徴的な体育館が3階にある「体育館棟」の2棟がある。機能性を追求し、全国で100以上の円形建築を設計した坂本鹿名夫氏の作品で、小樽にも同様の作りである旧石山中学校が残されている。

校舎棟は耐震性があり、市教育委員会が保存活用を行うことが早々に決められた。今後1階には遺跡出土の縄文資料などを収蔵展示するスペースが設けられる予定で、外壁などの改修工事が既に行われている。

一方、体育館棟は耐震性が不足しており、屋根や壁の老朽化対策の必要もあり、閉校前から残すことが難しいとされていた。それでも、市民団体が2棟の保存を訴え署名や勉強会などを行った他、室蘭市文化財審議会でも「校庭を含めた2棟の保存が望ましい」と提言された。市も民間による保存活用を求めて、廃校活用の仕組みを利用したPRや売却先の公募を行った。公募には市民団体が応募したが売却には至らず、2019年の議会で解体費を含めた予算が議決された。

ギリギリまで2棟の保存を探った市民側が最後に取った手段がクラウドファンディングでの資金調達で（<https://camp-fire.jp/projects/view/198859>）、実質10日で1146万円を確保した。別途、寄付の意思を示す書面（覚書）で750万円の約束を集め、約1900万円の「保存の意思」を示したことで市側が保存に舵を切った。解体を免れた体育館棟は、歴史的建造物の保存活用を行っている一般社団法人が購入することになり、売買契約が2020年10月に行われた。

今後は、校舎棟を市側が、体育館棟を市民団体が管理し、官民協働で校舎棟の活用を行い室蘭の魅力向上に資する事業を検討していく。体育館棟は耐震性の問題があるため当面物置程度の活用ではあるが、折々に少人数の見学会など安全に配慮しながら実施し、2棟並ぶ円形校舎をアピールしていきたいと考えている。

体育館棟は民間管理とはなったが、残念ながら、現在の状況は「当面の解体を見送る」ものであり、長期間にわたって体育館棟を保存活用するためには「耐震設計」を5年以内に、「耐震工事」を10年以内に行わなければならない条件が課されている。この課題は資金的にも技術的にも達成が難しいと思われるが、多くの方々の支援を無駄にしないように、知恵を出し合いながら魅力あふれる2棟を末永く残していきたいと考えている。

改めて、今後もしばらくご支援いただきますよう、お願い申し上げます。

写真提供：関 浩勝氏（絵鞆小卒業生）



写真 旧絵鞆小学校 外観



写真 体育館棟の屋根の鉄骨組